

# インド：「ハワラ」の功罪

～「ハワラ」を使った送金がイスラム武装勢力の資金源に～

2006年 7 月19日 (木)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～要 旨～

2006年 7 月11日午後 6 時半頃、インドのムンバイで連続爆発事件が発生した。爆発は、鉄道施設 7 ヶ所でほぼ同時に発生、多くの死傷者が出た。爆発はテロ事件である可能性が高く、犯行はカシミールを拠点とするイスラム過激派が関係しているとみられている。インドでは、05年10月29日にも、首都ニューデリーで同時爆弾テロ事件が起きた。テロ事件はパキスタンに拠点を置くイスラム武装勢力によるものであったとされる。このときは、経済やマーケットに大きな混乱が生じることはなかったが、今回、再び大規模な連続爆発事件が発生したことで、インドの地政学的なリスクが再認識されるかたちとなった。

インド国内で暗躍するイスラム過激派勢力は、「ハワラ」という送金システムを使って反政府運動のための資金を国外から調達しているといわれる。

「ハワラ」を使った送金の仕組みは次のようになっている。まず、「ハワラ」の業者が海外送金を希望する顧客から現金を預かる。「ハワラ」業者は、この顧客に暗証番号のようなものを教える。すると、顧客は他国にいる現金の受取人に、この暗証番号を伝える。他国にいる現金の受取人は、この暗証番号を現地の「ハワラ」システム提携業者に伝え、現地の提携業者から直接現金を受け取るという流れだ。

「ハワラ」には正規の金融機関と比べて 迅速に送金ができる 手数料が安いなどの特徴があるため、中東などの地域で働いている外国人の出稼ぎ労働者の多くが、「ハワラ」を利用して母国への送金を行っているといわれる。中東地域に出稼ぎに出ているインド人やパキスタン人も母国に送金する際、この送金システムを活用している。

「ハワラ」は、インドやパキスタンの出稼ぎ労働者にとって便利な存在であるが、問題はこれが出稼ぎ労働者だけでなく、闇勢力にも利用されているという点だ。正規の金融機関でない「ハワラ」は、送金の記録がいったい残らないため、犯罪者や国際的なテロ組織がアングラマネーの送金に利用するケースも少なくない。こうした状況下、インド政府は、「ハワラ」が麻薬・武器密輸組織やカシミールに本拠をおく反政府武装勢力の資金源あるいはマネーロンダリングの温床になっている可能性があるとして、「ハワラ」への監視を強化している。